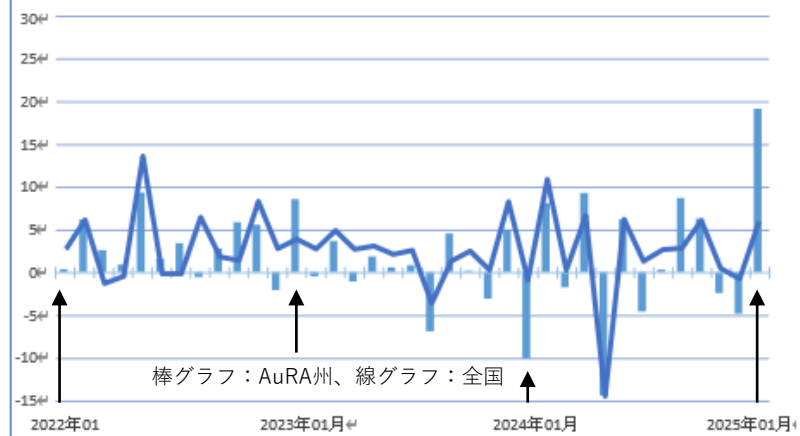


オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ州における景況感調査（2025年1月）

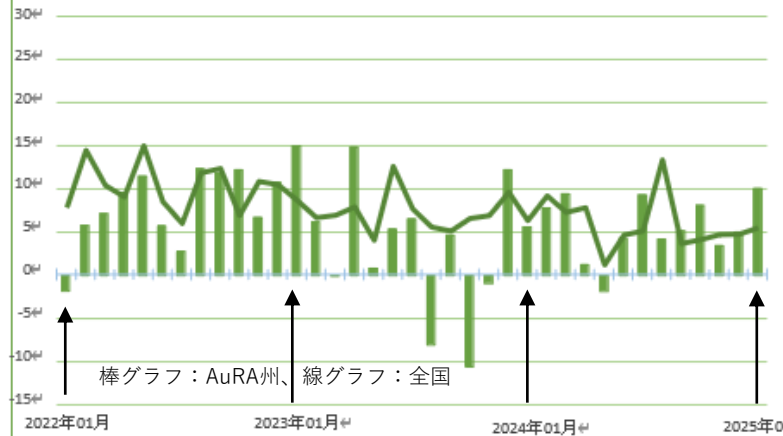
2025年2月 在リヨン領事事務所



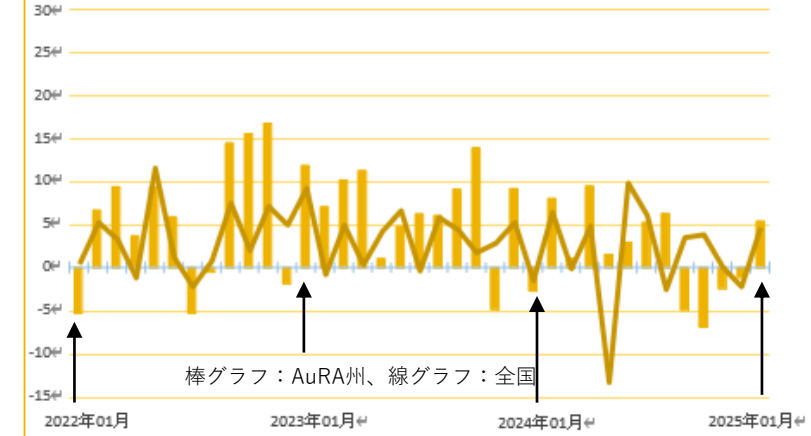
工業活動に関する景況感



サービス活動に関する景況感



建設活動に関する景況感



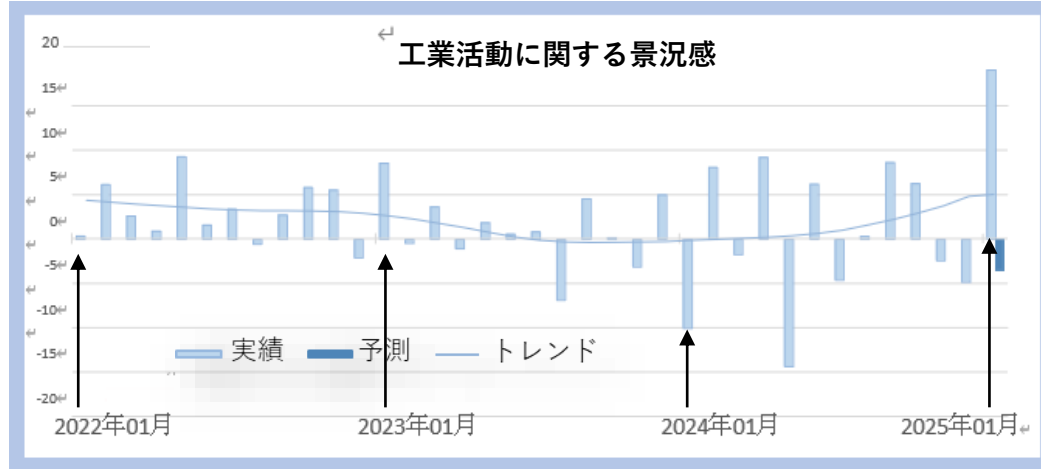
ポイント

- 2025年1月の景況感(le solde d'opinion)は、全国レベルと同様にAuRA州においても年末休暇後に3つの主要セクターとも回復した。2025年1月は前年よりも稼働日が多かったことから、これまでと異なる結果となった（前年は工業及び建設部門でマイナスだった）。
 - 景況感は回復したが、工業生産は低水準にとどまり、設備稼働率は長期平均を大幅に下回った。雇用者数は、特に派遣労働者の減少により、再び減少した。新規受注は、特に海外からの受注により活発化したとはいえ、企業経営者は依然として受注残高が不十分であるとみている。その結果、2月の工業活動の減少が予想される。
 - サービス部門では、道路貨物輸送部門の需要回復と宿泊・ケータリング部門の客数増加がAuRA州のサービス活動を牽引した。価格は安定しており、短期的には大きな変化はないとみられる。しかし、企業経営者の予測は慎重で、安定的なビジネスは今後数週間程度にとどまることを示唆している。
 - 建設部門では、年末休暇明けの1月に構造物工事と仕上げ工事の両方が活発化した。しかし、需要は低水準にとどまり、工事受注は再び減少。工事見積もり価格も引き続き下落した。2月の業況予測は弱含みとなっている。
- * 各部門におけるセクター毎の調査結果は下記の出所（仏語）をご覧ください。

- ・ フランス銀行が、AuRA州の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2025年1月29日～2月5日）。
- ・ 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による7段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から+200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。

（出所：Banque de France, [Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes](#)）

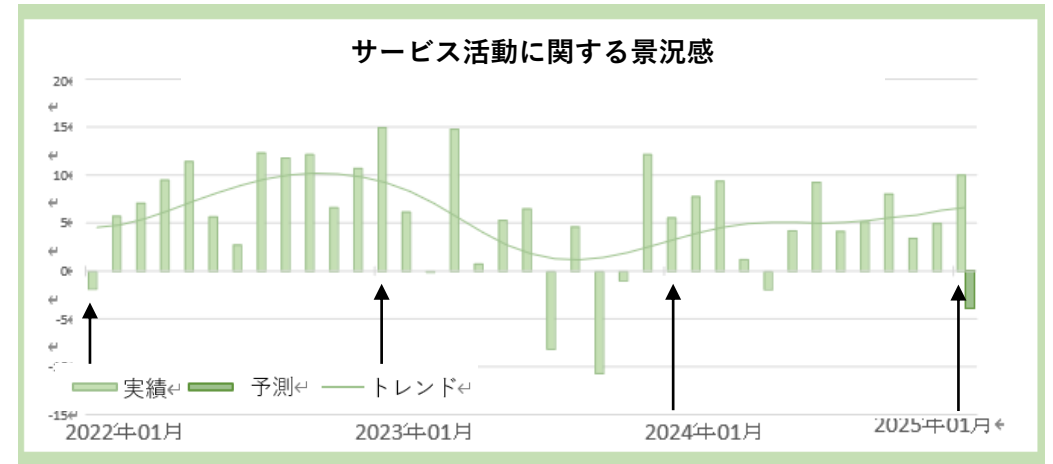
オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ州における景況感調査（2025年1月） ：実績、翌月の予測、トレンド



工業部門の景況感は年末休暇後に回復したが、セクター毎に違いがみられる。コンピュータ・電子・光学セクターと化学セクターが昨年12月の低水準から急回復したのに対し、製薬セクターは緩やかな伸びにとどまった。販売価格は年初にわずかに上昇した。新規受注は、特に海外からの受注により活発となったが、受注残高水準はまだ不十分である。そのため2月の工業活動の低下が予測され、景況感予測も控えめとなっている。



年初には、道路貨物輸送部門の需要回復と、宿泊・ケータリング部門の客数増加に支えられ、サービス部門の景況感は上昇した。しかし、他のセクター依然として低調であり、ITセクターは大幅に落ち込んだ。雇用者数と販売価格は安定しており、短期的には大きな変化はないとみられる。しかし企業経営者の予測は慎重で、安定的なビジネスは今後数週間程度にとどまることを示唆している。



建設部門では休暇明けに活動が活発化する現象がよくみられる。1月の景況感は回復したものの、構造物工事及び仕上げ工事の両方共に依然として低水準にある。構造物工事では、特に派遣労働者の削減により、労働力が調整されたが、仕上げ工事では維持されている。工事見積もり価格は引き続き下落。受注は再び縮小した。その結果、2月の業況予測は弱含みであり、業務量の減少が見込まれる。

